



対馬市 対馬沿岸藻場再生計画 令和3年度 実績評価と今後の計画

令和5年3月

対馬市

評価（進捗管理）	
◎	計画を上回る進捗
○	計画どおりの進捗
△	計画より少し遅れている
×	計画より著しく遅れている

3 「実績評価と今後の計画」について（内容）

1 藻場の保全

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	藻場再生計画のスケジュール										
		2017 (H29)	2021 (R3)				2022 (R4)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画		
1	イスズミ、アイゴ等、植食性魚類の除去（一斉駆除）	▶一斉駆除を開始（離再事業、多面事業等活用）	▶一斉駆除の継続（離再事業、多面事業等活用） ▶次年度の協力依頼 ▶駆除状況等の検証 ▶駆除実績報告の一元化 ▶集約したデータの活用方法の検討	▶一斉駆除の継続（離再事業、多面事業等活用） ▶次年度の協力依頼 ▶駆除実績報告の一元化	◎ ▶本年度も離再、多面両事業等を活用し、駆除を実施した ▶駆除実績報告の一元化による、魚種別や月別等の駆除実績データを収集することができた	▶引き続き、計画に沿って実行する ▶集約したデータの活用方法を検討する	▶一斉駆除の継続（離再事業、多面事業等活用） ▶次年度の協力依頼 ▶駆除実績報告の一元化 ▶集約したデータの活用方法の検討	見直し 実行 研究	取組結果を検証し次年度以降に反映（離再事業、多面事業等を活用） ↑ 反映									
		実施集落数	15集落	—	17集落													
	捕獲数	6,120kg	—	4,019尾														
2	ウニ、ニナ等の除去（一斉駆除）	▶一斉駆除を開始（離再事業、多面事業等活用）	▶一斉駆除の継続（離再事業、多面事業等活用） ▶次年度の協力依頼 ▶駆除状況等の検証	▶一斉駆除の継続（離再事業、多面事業等活用） ▶次年度の協力依頼 ▶駆除実績報告の一元化	◎ ▶本年度も離再、多面両事業等を活用し、駆除を実施した ▶駆除実績報告の一元化による、月別等の駆除実績データを収集することができた	▶引き続き、計画に沿って実行する ▶集約したデータの活用方法を検討する	▶一斉駆除の継続（離再事業、多面事業等活用） ▶次年度の協力依頼 ▶駆除実績報告の一元化 ▶集約したデータの活用方法の検討	アンケート 計画 研究	取組結果を検証し次年度以降に反映 ↑ 反映									
		実施集落数	27集落	—	33集落													
	捕獲数	25,310kg	—	51,387kg														
3	食害生物の有効活用（未利用資源の活用）	—	▶食害生物の流通および加工等に関するコーディネート支援業務 ▶新たな加工事業の推進	【（一社）MITと連携して研究中】 ▶食害生物の有効利用に向けた島内流通の仕組みに関する管理 ▶食害生物の有効利用に向けた加工事業の推進 ▶食害生物の捕獲および利用に関する研修会の開催	◎ ▶島内流通の仕組みづくりについて、管理体制が概ね整った ▶加工事業については、島内6事業者により活用に向けた取り組みを実施した ▶研修会については、定置網協議会や加工協議会と情報交換や説明会等を実施した	▶毎年6月末頃、定置網に大量に入網するアイゴの島内流通の検討 ▶食害生物の商品開発や加工品販売などによる販路拡大等	▶定置網に大量に入網するアイゴの島内流通の仕組みづくり ▶加工業者による加工事業推進に関する支援 ▶食害生物の捕獲および利用に関する関係者間による研修会等	調査 研究	調査、研究結果を踏まえ、商品化等を 目指す。									
4	漂流・漂着ゴミの回収、発生抑制対策（環境政策部門との連携）	【ゴミ回収】 ▶日韓海岸清掃フェスタ1N対馬 ▶日韓市民ビーチクリーンアップ ▶対馬市漂着ごみ回収業務	【ゴミ回収】 ▶日韓海岸清掃フェスタ1N対馬 ▶日韓市民ビーチクリーンアップ ▶対馬市漂着ごみ回収業務	【ゴミ回収】 ▶対馬市漂着ごみ回収業務	○ ▶コロナ禍により一部開催を中止したが、概ね計画どおりに進んでいる	▶引き続き、計画に沿って実行する	【ゴミ回収】 ▶日韓海岸清掃フェスタ1N対馬 ▶日韓市民ビーチクリーンアップ ▶対馬市漂着ごみ回収業務	回収 調査 研究	回収作業の継続 調査、研究結果を踏まえた発生抑制対策									
		漂着物の回収量	9,940㎡	—	7,598㎡													

2 藻場の再生

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	藻場再生計画のスケジュール										
		2017 (H29)	2021 (R3)				2022 (R4)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	
1	ホンダワラ類の母藻の確保・移植、食庄段階に応じて、カジメ、ワカメ等の再生	▶単一組織の活動	▶各漁業集落・活動組織に協力依頼 ▶ホンダワラ類の移植（離再事業、多面事業を活用） ▶母藻の確保にむけた連携体制の構築	▶ホンダワラ類の移植が思うように進んでいない ▶ホンダワラ類の残存地区が非常に少なくなっている ▶離再事業で3集落、多面事業で5組織が種苗投入を実施している	△	▶移植をするための母藻を確保することが難しくなっている ▶藻場残存地区との連携が必要	▶各漁業集落・活動組織に協力依頼 ▶ホンダワラ類の移植（離再事業、多面事業を活用） ▶母藻の確保にむけた連携体制の構築	ホンダワラ類移植										
2	対馬沿岸の環境に適した母藻の確保・移植	-	▶対馬沿岸の環境に適した海藻類の調査研究	九州大学と連携して研究中	△	▶移植をするための母藻を確保することが難しくなっている ▶引き続き、藻場の環境に適した母藻の確保に努める	▶対馬沿岸の環境に適した海藻類の調査研究	調査研究										
3	アワビ、サザエ等の種苗放流 実施集落数 種苗放流数	▶単一組織の活動 15集落 270,000個	▶アカウニ、アワビ、サザエ等の種苗放流状況調査 15集落 計画 270,000個	▶離再事業においてアカウニ、アワビ、サザエ等の種苗放流を実施 25集落 573,000個	◎	▶計画以上に種苗放流を実施できた ▶引き続き、藻場の環境に応じた種苗放流を実施する	▶アカウニ、アワビ、サザエ等の種苗放流状況調査	調査研究										
4	藻場礁の設置 藻場礁設置数	-	▶各地区の事例等の情報収集を行い、設置の検討をする -	藻場礁設置による十分な効果が見込めないため、振興実施計画に要望していない -	×	▶藻場礁設置による十分な効果が見込めないため実施していない ▶各地区の事例等の情報収集を行い、設置の検討をする	▶各地区の事例等の情報収集を行い、設置の検討をする	要望調査										
5	里海・里山の循環に関する取組 イノシシ捕獲頭数 シカ捕獲頭数	- 3,069頭 5,365頭	▶捕獲を継続計画 イノシシ 7,000頭 シカ 8,000頭 計画 7,000頭 計画 8,000頭	▶「吉岐・対馬鳥獣被害防止計画」に基づき、イノシシ、シカを捕獲 ▶島内11箇所で一斉捕獲を実施 ▶新規捕獲者への箱民貸付等の事業を実施 8,406頭 11,321頭	◎	▶シカの捕獲数が過去最高となり、イノシシについても昨年に続き、多数の捕獲を実施した ▶引き続き、計画に沿って実行する	▶捕獲を継続計画 イノシシ 7,000頭 シカ 6,000頭	調査研究										

3 モニタリング

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	藻場再生計画のスケジュール										
		2017 (H29)	2021 (R3)				2022 (R4)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	
1	漁業者へのヒアリング	—	▶漁業者へのヒアリング	▶九州大学と連携して漁業者へのヒアリングを実施した	○	▶藻場の現状、変遷情報を得ることができた	▶引き続き、漁業者へのヒアリングを実施し、情報収集を図る	▶漁業者へのヒアリング										
2	藻場環境のモニタリング	—	▶データの一元化について調査研究 ▶藻場の持続可能なモニタリング手法の調査研究	▶データの一元化を九州大学と連携して研究中	○	▶漁業者が自主的に、また継続的に調査を行えるよう、モデル地区において、漁業者モニタリングを実施し、持続可能なモニタリング手法の検討を行った	▶データの一元化に向けて、漁業者が主体となり、持続可能なモニタリングが実施できるよう、モニタリング手法の特定を必要とする	▶データの一元化についての調査研究 ▶持続可能な漁業者モニタリング法の特定										
3	藻場見守り隊等からの情報収集	—	▶情報収集方法の検討・実行	▶九州大学と連携して研究中	○	▶情報収集方法の検討を行った	▶引き続き、情報収集の検討、実効を行う	▶情報収集方法の検討・実行										
4	磯資源の利用状況調査	▶磯資源利用状況調査 (H29実施済)	▶調査結果の活用	▶九州大学と連携して研究中	○	▶対馬沿岸で環境DNA調査を実施した	▶引き続き、調査結果を活用する	▶調査結果の活用										
5	対馬沿岸の藻場マップの作製	▶藻場マップのベース作製 (3月)	▶藻場マップの情報更新	▶九州大学と連携して研究中	○	▶藻場マップの情報更新を行った	▶引き続き、藻場マップの情報更新を行う	▶藻場マップの情報更新										
6	モニタリングの結果の検証・反映	▶単一組織での活動	▶モニタリング結果の検証・反映 ▶対馬市全体のIT化政策と可能な限り連動させる	▶九州大学と連携して研究中	○	▶衛星画像や沿岸水温実測データを用いて対馬暖流の影響のモニタリングを実施した	▶離再事業、多面事業等で実施しているモニタリング結果の検証・反映を行う	▶モニタリング結果の検証・反映										
7	対馬沿岸の藻場面積を推定	▶藻場面積については、H25年に長崎県が実施した調査が最も直近の情報	▶推定方法の研究	▶九州大学と連携して研究中	△	▶漁業者が自主的に、また継続的に調査を行えるよう、モデル地区において、漁業者モニタリングを実施し、持続可能なモニタリング手法の検討を行った	▶データの一元化に向けて、漁業者が主体となり、持続可能なモニタリングが実施できるよう、モニタリング手法の特定を必要とする	▶推定方法の研究・検討										
	対馬沿岸の藻場面積	H25県調査 1,146ha	—	—														

4 磯焼けの原因究明

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	藻場再生計画のスケジュール									
		2017 (H29)	2021 (R3)				2022 (R4)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画
1	県、大学、研究機関等と連携した調査研究	-	▶県、大学等との連携 ▶藻場再生作業部会での研究	▶九州大学と連携し、調査研究を実施中 ▶藻場再生作業部会での意見交換（12月）	○ ▶磯焼けの原因究明に取り組んでいる 早期に原因が解明されることを期待する	▶引き続き、計画に沿って実行する	▶県、大学等との連携 ▶藻場再生作業部会での研究										
2	調査研究結果を活用・反映	-	-	-	-	-	-										
3	調査研究結果を整理し、報告書を作成	-	-	-	-	-	-										

5 情報発信・共有

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	藻場再生計画のスケジュール													
		2017 (H29)	2021 (R3)				2022 (R4)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027				
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画					
1	磯焼け特集番組	▶磯焼け特集番組制作 (3月)	▶市HPで紹介、教材等に活用	▶実績なし	×	▶放映や教材等に活用できなかった	▶市CATV、市内小中学校、市HP等での活用を目指す	▶市HPで紹介、教材等に活用	CATVで放映、市HPで紹介、教材等に活用												
2	対馬魚類図鑑	▶データベース作製 (3月)	▶市HPで紹介、教材等に活用 ▶図鑑情報の更新	▶市HPに掲載、また市内小、中、高等学校に配布 ▶図鑑情報の更新を行った	◎	▶市内の小、中、高等学校に配布し、幅広く周知することができた ▶図鑑情報については、新たな情報の追加を行った	▶引き続き、教材等に活用してもらえるよう、幅広く周知する ▶対馬魚類図鑑の完成を目指す	▶市HPで紹介、教材等に活用 ▶対馬魚類図鑑の完成を目指す	市HPで紹介、教材等に活用 図鑑情報の更新												
3	対馬の海の魅力PR用小冊子	▶PR用小冊子作製 (3月)	▶イベントでのPR活動、教材等に活用	▶市内小、中、高等学校に配布 ▶市窓口にてPR活動を実施 ▶各種イベントにてPR活動を実施	◎	▶市内の小、中、高等学校、また各種イベントにて配布し、幅広くPRすることができた	▶引き続き、PR活動、教材等に活用していく	▶イベントでのPR活動、教材等への活用	PR活動、教材等に活用												
4	国境の島・海の魅力発信隊	▶対馬市国境の島・海の魅力発信隊の設置 (H29年度設置)	▶SNS、イベント等での情報発信 ▶漁協等へ隊員推薦依頼	▶YouTube、Facebook、Instagramを活用して情報発信 ▶講演会 ▶イベント参加 ▶メディア出演 等	◎	▶隊員それぞれが、SNS、イベント参加等で積極的に情報発信を行った	▶引き続き、SNSやイベント等に参加して情報発信を行う	▶SNS、イベント等での情報発信 ▶漁協等へ隊員推薦依頼	SNS等を活用して対馬の海の魅力・重要性を情報発信												
	隊員数	3名	—	4名																	
	情報発信回数	—	—	84回																	
	イベント参加回数	—	—	20回																	
5	各種イベント等でのPR活動	—	▶各種イベントに参加して、対馬の海の魅力・重要性をPR	▶実績なし	×	▶PRイベント等があれば積極的に参加する	▶引き続き、計画に沿って実行する	▶各種イベントに参加して、対馬の海の魅力・重要性をPR	各種イベントに参加して、対馬の海の魅力・重要性をPR												
	イベント参加回数	—	—	0回																	
6	事例集の作製	—	—	—	—	—	—	▶事例の収集	前期取組の事例集作成 本計画の取組結果を総括し、事例集作成												

6 人材育成・確保

No.	取組	基準年度	当該年度				次年度	藻場再生計画のスケジュール										
		2017 (H29)	2021 (R3)				2022 (R4)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
		基準年度	計画 (P)	実績 (D)	評価 (C)	改善 (A)	計画 (P)	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画		
1	藻場、海藻類に広い知見を有する人材の育成・確保	▶配置なし	▶藻場、海藻類に広い知見を有する人材の育成・確保	▶島おこし協働隊1名配置	◎	▶計画どおりに隊員を確保できた	▶引き続き、計画に沿って実行する	▶藻場、海藻類に広い知見を有する人材の育成・確保										
2	漁業者等を対象とした磯焼け対策に関する学習会	—	▶磯焼け対策研修会の開催	▶実績なし	×	▶コロナ禍により研修会を中止した	▶引き続き、計画に沿って実行する	▶磯焼け対策研修会の開催										
3	市内小中学校等との連携	【多面事業活動組織】 ▶内院（地域住民） ▶塩浜（地域住民） ▶綱島（地区小学生） ▶水崎（地区小学生） ▶鰐浦（地域住民） ▶佐須奈（地域住民） ▶佐須（地区小学生） ▶豊（地区小学生） 【市水産課】 ▶豊小学校総合学習（10月）	▶機会あるごとに各学校を訪問	【多面事業活動組織】 ▶内院、鴨居瀬、大船越、三浦湾、綱島、鰐浦、豊（地区小学生） 【離再事業活動集落】 ▶西泊湾内（比田勝小、中学校）	◎	▶多面事業、離再事業を活用して、漁業者が積極的に教育学習を開催した	▶引き続き、計画に沿って実行する	▶機会あるごとに各学校を訪問										
	学習会等実施回数（活動組織）	8回	—	8回														
	学習会等参加回数（市水産課）	1回	—	0回														